

あなたの地域でこんなこと ありませんか

子どもや若者が減
って、行事が寂し
なってきたね…

人がいないからって、
いくつも役職を兼任！
しんどいよ

近くのお店が無く
なって、買い物
が不便になったわ

一人暮らし世帯が増え
た。隣の人、顔見る機
会減ったけど大丈夫？

災害のとき、地域で
ちゃんと助け合える？

近所に空き家が増えて
倒壊や景観の悪化、放
火など防犯面も心配…

隣のおうち、お年
寄りがお年寄りを
介護してる…



橋の地域づくり5カ条

- ・みんなが支えあい明るく元気に暮らせる橋
- ・みんなが地域の良いところを発見し、
守り、伝える橋
- ・みんなが優しく、集まって話し合える橋
- ・みんなが気軽に生き生きと参加できる橋
- ・みんなが前向きに柔軟にチャレンジする橋

阿蘇さんは「振り返ってみる
座談会には毎回たくさんの方
民が参加。話し合いを重ね、こ
れからの活動の柱として作成さ
れたのが、地域づくり5カ条で
す。「1年かけて、みんなで考
えて、納得して作った理念よ」
と阿蘇さん。一言一言に「こん
な橋にしたい」という皆さんの
強い思いが込められています。
その後も有志による話し合い
は続き、みんなが目指す橋に向
けての具体的な活動を、地域未
来ビジョンとして決めました。

話し合いから生まれた 理念とビジョン

みんなで描いた橋の未来 自分らのまちのことは、自分らでなんとかしよや

橋の地域づくりの始まりは昨
年2月。「行政に頼るだけじゃ
いかん、自分らでやっていか
な」という思いがあったんよ
話するのは、当初から関わって
きた阿蘇浩造さん。市主催の講
演会への参加後、その思いがさ
らに強くなり、地域づくりモデ
ル地区として手を挙げました。

と、ゼーンぶ大変やった」と笑
います。「地域のこと考えるん
はみんなでないかん。地域の
人がどれだけ参加してくれるん
か『心配じゃ』という気持ちが強
かったさん、周りの人たちにも
ようけ声掛けしたんよ」とのこと。
これまでの成果は「橋の地域
づくり5カ条」と「地域未来ビ
ジョン」の作成。みんなが自由
に意見を言える場として、何度
も座談会を開催しました。

みんなで決めたことだから 共有して実現へ

今年6月にはビジョン実現の
ため「橋の未来を拓く会（以下、
拓く会）」、「橋未来づくり協
議会」を設立。若者が中心となる
拓く会では企画・コーディネー
トを、橋の15の団体が集まる協
議会では、それぞれに連携して
企画の実行を担っていきます。

「大切なことは、いろんな年代
の人が集まること、ビジョンを
共有しておんなじ方に向かって
いくこと」と阿蘇さん。「地域
の人たちや公民館、役所の人、
関わる人ら全部集めて『チーム
橋』。これからは『何かしよる
な』と思っとる人らを巻き込ん
でいかんとね」と、今後の目標
を教えてくださいました。



研修会（左）・座談会（右）
の様子。研修会には地域住民
153人、座談会には毎回40～
50人が集まりました

橋の未来を拓く会・
橋未来づくり協議会
会長 阿蘇浩造さん

特集 これからの地域の形

このまちが 好きやけん

「昔は良かった」。
あなたも聞いたことが
あるかもしれません。
人口減少などが進む今、
暮らしをめぐる困り事は複雑化。
担い手不足による地域の負担増加、
伝統文化の継承、行事の廃止など、
たくさん課題が見えてきています。
その中で、未来に向けた地域の形づくりに
挑戦している地域があります。

みんなで集まって話し合い、
まちの将来像を描き、共有し、
みんなで支えあって、
より良いまちをつくっていく。
住民役の地域づくりを
進める姿を紹介します。

橋・天満宮のクスノキと
「橋の未来を拓く会」の皆さん

私たちが、チーム橘！

橘の未来を拓く会のメンバーと、活動を支える団体の皆さんに、目指す橘の姿を聞きました。



藤原佳枝さん

若い子らが住んでみよか、帰ってみよかと、いううちに



川上沙斗美さん

幅広い人との交流が、簡単にできる地域に



工藤浩棋さん

子どもがいっぱいあって、みんな楽しんでいける場所



金子芳久さん

バラバラの年代が一緒になって生活できるように



川村美子さん

(橘未来づくり協議会)

地域の人みんなが一つの家族になるような橘に



横井美果さん

地域が子どもを育てる、その環境を守っていきたい

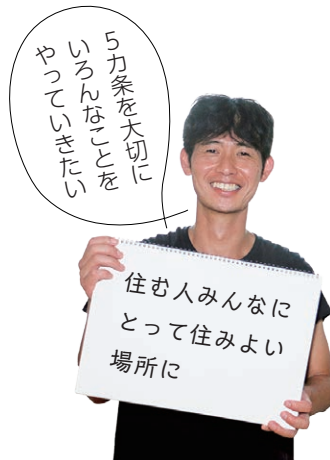
関わるみんながチームの一員！皆さんの目指すまちに向け、私たちもお手伝いします！

西条市橘公民館



橘公民館、市民活動支援センター、社会福祉協議会、西条市役所市民協働推進課・包括支援課の皆さん

橘の未来を切り拓こう！チャレンジ＆トライ！



力案を大切にいろんなことをやっていきたい

住む人みんなにとって住みよい場所に

副会長 難波江 亮さん

地元の人はもちろん、ほかから来た人も住んで良かったなあと思えるようなところにしていきたいね。地域のつながりが強いと、入ってしまえば楽しいんだけど、新しい人はなかなか入っていきんのよ。それを解消して、ずっと住んでもらえる場所にしたいね。

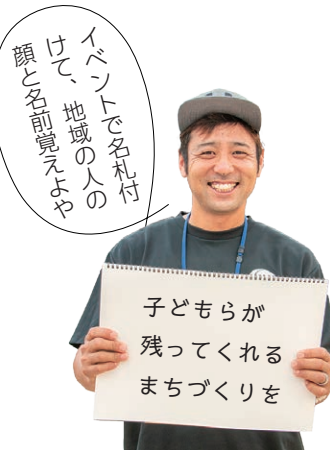


青空マルシェやりたいです

普段から地域のみんなが関わり合える橘を残していきたいですね。

事務局員 八鍬亜季さん

災害が起きたときにも声を掛け合えるようなまち、住みやすい橘にしていきたいです。子どもがいる環境で、名前を出したらみんなが「ああ〜」みたいに分かってくれる、それがすごく良いところだと思ってるから、その環境を残していきたいですね。

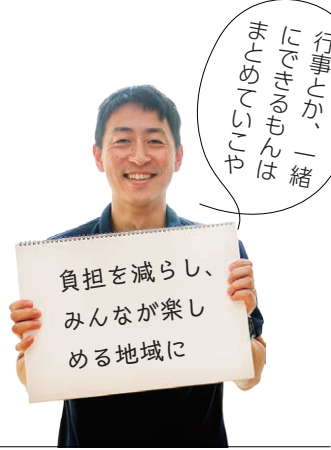


イベントで名刺付けて、地域の人の顔と名前覚えよう

子どもが残ってくれるまちづくりを

藤井貴浩さん

僕は子どもが女の子4人おるけど、1人でもええから地元に残ってくれるようなまちづくりをしていきたいね。よそからお嬢さん来てもらうにしても、地域の課題が多いとそれも難しいでしょ。いろんな障害が少ないまちにしていきたいね。



行事とか、一緒にできるものはまじめたい

負担を減らし、みんなが楽しめる地域に

十亀匡史さん

地域の負担の削減をメインでやっていきたいです。地域づくりってイベントとかに寄りがちやけど、それだと負担が増えるだけ。良いものは残して、無駄なものは無くしていく、その初心を大事に、みんなが楽しめるようにしていきたいです。



みんなで行くから楽しい。

活動の第一歩 買い物ツアー

ジャンボタクシーでスーパーへ！

実現した一つ目の企画

橘地区の住民による具体的な活動は早速始まっています。7月3日には、最初の企画が形になりました。「お店が近くにな」「買い物に行くのが不便」という課題の解決のため、車が無くても買い物などが楽しめる機会を作ろうと企画されたのが「買い物ツアー」です。

参加者は地域に住む70歳以上の高齢者。車で20分ほどの市内のスーパーへ、ジャンボタクシーで向かいます。企画の段階では「スーパーで、そんなに人集まるかねえ」という懸念の声もありましたが、募集が始まるとあっという間に定員に。引率の民生委員も含め33人の大所帯となりました。中心となって企画してきた拓く会の事務局長・伊藤有香さんも「そんなに需要があるなんて」と驚いた様子。



せっかく来だし、何を頼むかみんなで相談

皆さんの笑顔が見られてうれしかったです



楽しそうに響く笑い声



橘の未来を拓く会 事務局長 伊藤有香さん

大切なのは、交流の機会

スーパーの滞在時間は昼食を含めて2時間半。昼食のときも買い物のときも会話がはずみます。衣類売り場では「これおそろいで買って、温泉行こや」と華やかな声も聞こえてきました。「バイクや車でスーパーは行けるんよ。でも、みんなとご飯食べて、みんなと買い物する、そういうのが楽しくてええよね」と参加者の皆さん。伊藤さんは「今回参加してくれたのは地域でも元気な人たち。移動の足自体にはまだそんなに困っていない。皆さんが求めているのは

描いた未来を形に

地域のお友達と会える、みんなが楽しめる、コミュニケーションの機会なんだと感じました」と話します。「予算の都合もあって、開催できるのは年に1回程度。でも、交流や買い物をを楽しむ機会として、続けていきたいです」とほほ笑みます。次のステップとして考えているのは、移動販売車の活用。集会所ごとに回ってもらえれば、集まりのきっかけになるし、複数の商品の中から選ぶ買い物の楽しさもあるのでは、とのこと。

買い物以外にも、行事の見直しや世代間の交流、高齢者の活躍の場づくりなど、拓く会が企画を進めている活動はたくさん。自分たちで描いた未来を、拓くための活動は続いていきます。



中身いっぱい、重くなったエコバッグ、たくさん買ったよ

大町全体で一つの輪に。

橘と同じく、昨年から地域づくりに取り組んできた大町。今年7月26日には、大町地域づくり協議会が設立。会長・副会長の4人に地域づくりへの思いや、今後の展望を語ってもらいました。

それぞれの思い まずは負担を減らすことから

——皆さんが地域づくりに参加しようと思ったきっかけはなんだったんでしょう。

塩出さん（以下、塩） 自分は大町の連合自治会長3年目。会長就任当初、自治会未加入が問題で、何とか地域を変えていきたい、という考えが最初やね。
坂東さん（以下、坂） 実はあんまり関心なかったんです。防犯協会支部長と連合自治会の防犯部長を兼任してて、役の負担を減らしたい一心でした。
近藤さん（以下、近） 僕はこの4月から大町小学校の校長と

して着任。大町での勤務は3回目、年数的には14年目になります。お世話になってきたまちで、魅力も知ってるから、活性化に協力できたらという思いです。

西川さん（以下、西） 大町にある企業という枠で参加しています。大町に進出して約3年、地元企業として何かお役に立てないかな、と考えてたところにちょうど声が掛かりました。

——昨年1年間活動してきて、大町はどう変わりましたか。
塩 連合自治会の中の専門部10部門を五つに減らす、組織のスリム化を行ったんよね（図1）。
坂 連合自治会の防火部と消防団など、目的は同じだけど、組

織としては別のものがある分野でたくさんあったんですね。おんなじことしよんのに、役も負担も倍になってました。
塩 最初は連合自治会に問題やかないと思ってた。でも自治会長さんらを集めて話聞いてみた

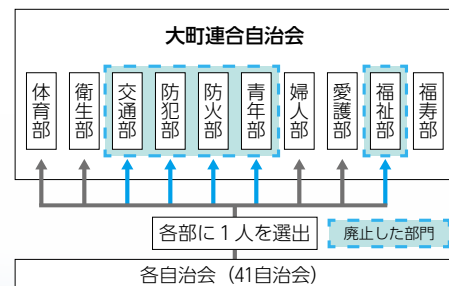


図1 五つの部門を廃止したことで、各自治会の人員選出の負担を軽減

ら「会合が多い、部が多い。役員するんがしんどい」って意見が多くて、部の数を減らすことにしたんよ。やっぱり、みんなの意見を聞いてみないと分からんね。上から下に、一方的なんじゃダメやな、と思ったね。

集まったからこそ、たくさんのお話をしたい

——21の団体が集まった「大町地域づくり協議会」。これからどう進めていきたいですか。

塩 協議会は、大町のいろいろな団体が横につながって連携・協力するためにできた組織。たくさん意見出してもらって、その中から1年に一つか二つ、課題解決に動いていきたいね。

坂 大事なものは、どうしたらできるか、大町が良くなっていくかって話し合う過程。話し合っただけじゃダメで、実際にやってみないと初め、一緒にやってみようってなるよね。自分らの親が大町に残してくれたものを子どもに残してあげたいな。
塩 梅まつりを復活させたいね。企業さんらには露店開いてもらって、以前よりもぎやかな行事にしたいね。

近 いろんな人・団体を巻き込んだからには、お互いに利益のある、より良い関係であるようにしたいですね。

西 2年・3年先じゃなくて、何十年先を見据えていきたい。小学生や中高生、若い層の意見も吸い上げられる全世代的な活動にしていけたら、僕らでは思いつかん、面白いアイデアも生まれるかもしれないね。
近 地域で子どもを育てる、その前進にしたいと思います。

塩 協議会は、本当にまだできただけ。「チーム大町」として一つの輪になって、意見を出し合って、大町をより良くしていく集まりにしていきたいね。

／ 続く地域づくりの波 ／

現在は以下の3地区でも地域づくりが進んでいます。

小松

より多くの住民が地域づくりに参加するために



タウンミーティングをきっかけに話し合いがスタート。多くの人を巻き込んでどう進めていくか、熱心な議論が行われています。

田滝

これからも安心して暮らせる田滝であるために



地域を見つめ直し、思いを共有しながら、これからの田滝地区が目指す地域未来ビジョンの作成に取り組んでいます。

国安

子どもが楽しく健やかに暮らしていくために



自治会、愛護班、PTAを中心に座談会を開催するなど、地域の課題を掘り起こしながら、地域のありべき姿を検討しています。

地域ので地域を育てる

「この地域が好きだから、守ってきたい」という思いは、みんな共通。地域の未来について話す皆さんの目の輝きが印象的でした。

地域づくりは未来のビジョンをみんなで共有したとき、進んでいくもの。地域によって抱える課題はさまざま。だからこそみんなでじっくり話し合っ、困り事や解決策を見つけていくのが大切なんだと思います。
公民館や市役所のサポートもあります。やっぱり主役は地元に住む私たち。あなたも、自分のまちの「チーム〇〇」の一員になってみませんか。

もっと詳しく知りたい方は
橘・大町の地域づくりの歩み展

日時 8月29日(休)～9日20日(金)
10時～19時(水曜日・祝日は休館)
場所 市民活動支援センター

▶問合せ・ご相談はこちら
市庁舎本館3階 市民協働推進課
Tel.0897-52-1462
市ホームページでも地域づくりの歩みをご覧ください。 



副会長 坂東君良さん
(防犯協会大町支部長)

会長 塩出将太郎さん
(大町連合自治会長)

副会長 近藤一雄さん
(大町小学校長)

副会長 西川陽一さん
(株式会社西条工場
工場長代理)

考古歴史館から大町を眺める大町地域づくり協議会の皆さん